

第32回 放送番組審議会 議事録

◆開催日： 2019年3月25日（月）10:00～12:00

◆場 所： 株式会社ジェイコム札幌 本社 3F 会議室

◆出席者： 番組審議委員 6名中3名出席（3名欠席）

- ①山本 強 様（会長）北海道大学 大学院 教授
- ②星野尚夫 様（委員）（一社）札幌観光協会 特別参与
- ③阿部夕子 様（委員）（株）Mammy Pro 代表取締役

株式会社ジェイコム札幌 代表取締役社長 岩本 好正

株式会社ジューピターテレコム 札幌メディアセンター長 丸本 靖

株式会社ジェイコム札幌 管理部 地域プロデューサー 雨尾俊英

株式会社ジューピターテレコム 札幌メディアセンター（事務局）中島 隆

株式会社ジェイコム札幌 管理部（事務局）國木典昭

記

・J:COM 札幌 岩本社長 挨拶

現在、ホームパス数（敷設済み・加入可能世帯数）が約83万3千世帯となり、札幌市内エリアカバー率は87%となります。引き続き、皆様のご支援のもと、社員一丸となってインフラ環境の整備と地域の皆様に必要とされるようなサービスを提供してまいります。

コミュニティチャンネルの動向としましては、「地デジ10chのJ:COMテレビ」では「地域から全国発信」をテーマに、そして、「地デジ11chのJ:COMチャンネル」では「ど・ローカル」をテーマとして、この2つのコミュニティチャンネルを武器に、地域情報を中心に編成をしておりますが、新年度にあたり、来月、4月1日からジェイコム札幌の組織体制を再編いたします。従来まで、「札幌メディアセンター」は、ジューピターテレコムの組織の一部としてコミュニティチャンネルの番組制作や編成を行ってまいりましたが、地域との関わりを一層深め、地元行政との連携を強化するために、当社 ジェイコム札幌の組織配下へ移管いたします。また、現在、管理部に所属する地域プロデューサーを同じ組織に含めて、新たに「地域コミュニケーション部」を設立し、より地域密着した番組作りと地元で愛されるメディアとして運営してまいります。

皆様には、コミュニティチャンネルのみならず、皆さまからJ:COMに対するご意見ご要望がありましたら忌憚のない、ご意見をいただきたい。

・コミュニティチャンネルの報告

（1）J:COM加入（視聴可能）世帯数の概略

J:COMグループ全体、及びJ:COM札幌の概要を説明

（2）J:COMテレビ 10ch（J:COMグループ全局で放送）

3つのコンセプトで地域の魅力をJ:COM全エリアへ、

- 1.地域の魅力の全国発信番組のさらなる開発
- 2.スポーツ、エンターテインメントと地域をつなぐコンテンツの充実
- 3.専門チャンネル×地域のコラボレーション企画 主な番組としては「ご当地サタデー♪」「笑福亭鶴光のオールナイトニッポン.TV@J:COM」「秩父宮みなとラグビーまつり2018」「全国から初笑顔！J:COM列島リレー2019」等について報告をした。

(3) 地域情報アプリ「ど・ろーかる」

地域の今をお届けする、見られる媒体を増やしている、4月よりコンテンツを充実させ使いやすくしていく、視聴者からの動画投稿も可能ライブカメラは全国で60か所以上あり、札幌では4ヶ所ライブ配信をしている。

(4) J:COMチャンネル札幌 11ch (札幌市内で放送)

「デイリーニュース」は、地域のトピックス系を集めて放送。地域のスポーツ、地域のプロスポーツのレギュラー番組化、地域のイベント、学校祭・成人式・町内会のおまつりの特番化、札幌人図鑑を活用したステークホルダーとの関係強化、Bリーグ中継の実施等について報告をした。

北海道胆振東部地震の災害対応、発生時から道内全域でブラックアウトとなったが、当局舎においては自家発電機による緊急の生放送を局舎スタジオから実施、被害状況・避難所情報・ライフライン情報を1～2時間おきに最新の情報を生放送した、またL字掲出も行った。翌日は札幌市災害対策本部会議の生放送をタイムリーに開始、停電の長期化や人員の過労などを鑑み、関東の浦安のスタジオから遠隔で生放送を実施、災害時には有効な実施となった、また「ど・ろーかる」アプリによる災害情報の配信もとても有効に活用されていた。避難所支援、被害の大きかったエリアの避難所へ当社のケーブルを引入、テレビ設置およびWifi環境の整備を実施、局舎前では、街頭放送・携帯電話の充電サービスを実施した。

地域のケーブルテレビとして災害時に必要とされる役割を果たし、札幌市長より感謝状をいただいた。

・番組編成に関する意見交換

(委員) 災害時はどのように行動すれば良いか、まったく判らず不安であった。JCOM が地域の情報を流せている事は、とてもよいことである。

(事業者) エリアが札幌なので、札幌を中心とした情報を発信。震源地の情報も必要であったが地域の方々が必要としている情報、給水情報などをより頻度高めて情報を発信しなければならないと思った。我々のチャンネルに合わせていただければ災害時の生活に困らない情報が入ることの使命感にとらわれた。

(委員) マスターを関東でやられたことはすごく頼もしい、大変良い仕組みであった。今の時代にあっているし現場も混乱しているときに実際に回線ができていくこと、技術面で今の情報通信の慣例をふまえると大変良い仕組みである。

(事業者) 今回の災害は強力なメディアの有効であり、JCOM で2日間に渡り災害情報を届けたことはとても有効であった。

(委員) 野球やバスケットボールなど民放で流さない放送を捕まえている事は、良いこと。少年野球や中学生の野球を取り上げているが野球が多いがサッカーがひたしやす、また北海道ないでも女子チームが増えてきているのでサッカーにも力を注ぐべきだと思う。

見る側としてNETはPULL型、TVはPUSH型でTVもPULL型の施策が必要と考える。上手く考え新しい切り口が出ると思う。

(委員) 地域に密着した番組構成は、札幌市民としてありがたいと感じました。特に普段、テレビに映ることの無い地元の方も喜んでいらっしゃるかと推察します。札幌の3大プロスポーツの情報も身近に感じられます。

若干スポーツ系が多いと感じましたので文化、カルチャーなど多種多様な情報があると良いと感じました。

私どもの仕事の特性から、子育て中のお母さんやお子さんと一緒にいけるような遊び場など子育てにまつわる情報もあると視聴したい方も増えるのでは想像しました。

(事業者) 各委員からの貴重なご意見、ご要望を今後の番組制作に活かしていく所存であります。

・閉会

以上